

平成二十二年歌会始御製御歌及び詠進歌

光

御製

木漏れ日の光を受けて落ち葉敷く小道の真中草青みたり

皇后陛下御歌

君とゆく道の果たての遠白く夕暮れてなほ光あるらし

皇太子殿下

雲の上に太陽の光はいできたり富士の山はだ赤く照らせり

皇太子妃殿下

池の面に立つさざ波は冬の日の光をうけて明かくきらめく

文仁親王殿下

イグアスの蛍は数多光りつつ散り交ふ影は星の如くに

文仁親王妃紀子殿下

早春の光さやけく木々の間に咲きそめにけるかたかごの花

正仁親王殿下

父君に夜露の中をみ供してみ園生を行けば蛍光りぬ

正仁親王妃華子殿下

大記録なししイチローのその知らせ希望の光を子らにあたへむ

崇仁親王妃百合子殿下

雪^{ゆき}はれし富良野の宿の朝の窓ダイヤモンドダストのきらめき光る

憲仁親王妃久子殿下

北極の空に色づくオーロラの光の舞ふを背の宮と見し

承子女王殿下

黄金^{わうごん}に光り輝く並木道笑顔の友の吐く息白く

典子女王殿下

葉の上にはぽつりと残る雨粒に雲間より差す光ひとすぢ

御製

木漏れ日の光を受けて落ち葉敷く小道の真中草青みたり

吹上御苑内の小道を御散策の折、光が木々の間から差し込んでいる所には、草が青く生えている情景をご覧になって詠まれた御製である。

皇后陛下御歌

君とゆく道の果たての遠白く夕暮れてなほ光あるらし

御成婚五十年をお迎えになった昨年四月頃のお作。暮れなずむ皇居内を、陛下と御散策された折の印象を詠まれている。

皇太子殿下

雲の上に太陽の光はいできたり富士の山はだ赤く照らせり

皇太子殿下は、平成二十年の夏、富士山に御登りになりました。

このお歌は、その際、眼下に広がる雲海からのぼる御来光を御覧になり、その陽の光が、富士山の山はだを燃えるように赤く染める情景に感動されてお詠みになられたものです。

皇太子妃殿下

池の面に立つさざ波は冬の日の光をうけて明かくきらめく

妃殿下は、日頃より赤坂御用地のお庭をお歩きになることを日課になさり、楽しみにされています。

このお歌は、穏やかな冬の日の午前中に御散策にお出になられた折に、静かなお庭にある大池に立つさざ波が、日の光を受けて殊の外美しくきらきらと瞬き輝く様子に、お心を動かされてお詠みになられたものです。

文仁親王殿下

イグアスの蛍は数多光りつつ散り交ふ影は星の如くに

一九九八年、秋篠宮同妃両殿下にはアルゼンチン国を公式訪問され、滝で有名なイグアスにもいらっしやいました。ご宿泊のホテル（ホテル・インテルナシオナル・イグアス）で夜に散策された折、日本の蛍より大きな光を放つ蛍を多数ご覧になりました。秋篠宮殿下は、その光景があたかも澄んだ空に瞬く星のようにお感じになり、そのことを思い起こされて、このお歌をお詠みになりました。

文仁親王妃紀子殿下

早春の光さやけく木々の間に咲きそめにけるかたかこの花

三年前、天皇后両陛下とご一緒に秋篠宮ご一家は御料牧場（栃木県）にご滞在になりました。寒さが少し残る三月下旬、春先のさわやかな光に照らされた林の中を皆さままで散策された折、落ち葉のところどころから可憐なカタクリの花が咲きはじめていました。秋篠宮妃殿下は、その時の様子を懐かしく思い起こされて、このお歌をお詠みになりました。

正仁親王殿下

父君に夜露の中をみ供してみ園生を行けば蛍光りぬ

正仁親王妃華子殿下

大記録なししイチローのその知らせ希望の光を子らにあたへむ

「大リーグ・マリナーズ、イチロー選手の九年連続二百本安打の新記録のニュースを聞いて」とのことです。

崇仁親王妃百合子殿下

雪^{ゆき}はれし富良野の宿の朝の窓ダイヤモンドダストのきらめき光る

かなり以前、北海道富良野にスキーに行かれた時、雪がやんだ朝、ホテルのお部屋から眺めた景色を詠まれたものであります。

憲仁親王妃久子殿下

北極の空に色づくオーロラの光の舞ふを背の宮と見し

殿下とグリーンランドご訪問の際ご覧になったオーロラのことを詠まれたとのことです。

承子女王殿下

黄金^{わうごん}に光り輝く並木道笑顔の友の吐く息白く

早稲田大学のいちよう並木の光景をお詠みになったとのことです。

典子女王殿下

葉の上にはぽつりと残る雨粒に雲間より差す光ひとすぢ

庭に咲くあじさいの葉に残っていた雨粒が太陽の光に輝いた時のことをお詠みになったとのことです。

召人 武川忠一

夕空に赤き光をたもちつつ雲ゆつくりと廣がりてゆく

選者 岡井 隆

光あればかならず影の寄りそふを肯うべなひながら老いゆくわれは

選者 篠 弘

金箔の光る背文字に声掛けて朝の書齋へはひりきたりつ

選者 三枝昂之

あたらしき一步をわれに促して山河は春へ光をふくむ

選者 河野裕子

白梅しらびらめに光さし添ひすぎゆきし歳月の中にも咲ける白梅

選者 永田和宏

ゆつくりと風に光をまぜながら岬はなの端に風車はまはる

選 歌 (詠進者生年月日順)

東京都 古川信行

燈台の光見ゆとの報告に一際高し了解の聲

静岡県 小川健二

選果機のベルトに乗りし我がみかん光センサーが糖度を示す

群馬県 笛木力三郎

冬晴れの谷川岳の耳二つ虚空に白き光をはなつ

北海道 西出欣司

前照灯の光のなかに雪の降り始発列車は我が合図待つ

兵庫県 玉川朱美

梅雨晴れの光くまなくそそぐ田に五指深く入れ地温はかれり

長野県 久保田幸枝

焼きつくす光の記憶の消ゆる日のあれよとおもひあるなと思ふ

大阪府 森脇洲子

我が面は光に向きてゐるらしき近づきて息子はシャツターを押す

東京都 野上 卓

あをあをとしたたる光三輪山に満ちて世界は夏とよばれる

福岡県 松枝哲哉

藍甕に浸して絞るわたの糸光にかざすとき匂ひ立つ

京都府 後藤正樹

雲間より光射しくる中空へ百疊大風揚がり鎮まる

佳 作 (詠進者生年月日順)

兵庫県 山田富之助

ひそやかに兵糧運ぶ舟艇の夜光の波は美しかりき

長野県 関 義豊

頑として圃場整備を断わりし古田の堰かゝに蛍の光る

埼玉県 石田満里子

光覚はかすかにあるといふ人の頬をささへて月を見しむる

アメリカ合衆国
カリフォルニア州 小池美代子

六月の薄れ日光るコロンビア河大洋に入る前のしづけさ

岐阜県 中西昌子

花ゆれて朝つゆ光る大賀はすとほきいのちを美濃にはぐくむ

富山県 山田久二

オリオンに光軸合ひてこの世でもかの世でもない世を覗きをり

東京都 森田 厚

山里の日暮れは早し移りゆく光を追ひて銀杏を干す

神奈川県 戸村健兒

放射線管理区域に徹夜して光明るき廊下帰り来く

奈良県 森下弘子

いにしへの書をいたはると光落し展示されをり定家直筆

福島県 篠原昭市

懐かしき昔のカメラ手に取りて露光決めむと空を見上ぐる

長野県 小林正人

霜光る枕木踏みて明日よりは無人化となる駅を見廻る

岩手県 八重嶋 勲

喫水の深き漁船が羽光る鷗の群れをまとひ帰り来

徳島県 下町義克

天測に星の光を手繰りては遠洋漁業の針路とりにき

青森県 滝野澤弘

車椅子を手首で漕ぎて子はつひに朝の光の窓に向きけり

大阪府 高須賀航

試験前必死になつて読み返す蛍光ペンを引いた教科書

大阪府 松本哲武

あんなにも降り注ぎたる光さへ山を越えれば木洩れ日となる